

■ 小学6年生 国語科

全体の概要

- ・ 全体的には県や全国平均とほぼ同じです。
- ・ 観点別に見ると、書く能力、言語についての知識・理解・技能は、全国平均をやや下回っており、読む能力は全国平均と同程度でした。
- ・ 問題形式別に見ると、短答式・記述式の正答率が県や全国平均をやや下回っていました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
話す・聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題では無解答率が 10%を上回っており課題が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決等に向けての話し合いの際は、互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら聞き取るように指導することが大切です。また、自分の考えをまとめさせる活動を取り入れる必要があります。
書く	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にして、まとめて書く問題では正答率が 20%台と低く課題が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」の単元以外にも書く活動（考えをもつ・振り返りを書くなど）を取り入れることが大切です。 ・字数制限だけでなく、書き出しを指定する等、条件を与えて書く活動を授業に位置付ける必要があります。
読む	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくことに課題が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に様々な文や文章を読み、筆者がどのような事実を理由や根拠として挙げ、それについてどのような考えや意見を述べようとしているのかを捉えることができるように指導していくことが大切です。
知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことに課題が見られます。 ・漢字を文の中で正しく使うことにも課題が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指示語や接続後が文と文との意味のつながりに果たす役割について、文章を理解したり表現したりするとき強く意識できるように指導する必要があります。

■ 小学6年生 算数科

全体の概要

- ・ 全体的には県や全国平均とほぼ同じです。
- ・ 量と測定の領域については県や全国と同じで正答率が 50%台でした。
- ・ 問題形式別に見ると、記述式の正答率が 50%を下回っていました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
見方や考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する問題は、正答率が 30%を下回っていました。 ・ 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を言葉や数を用いて記述する問題は、正答率が 50%を下回っていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題の解き方や考え方の道筋が分かるようなノートの書き方を指導する必要があります。 ・ 数や場面を変えても計算に関して成り立つ性質を活用できるかどうかを考察することができるようになる必要があります。 ・ 合成や分解など図形の構成についての見方を働かせ、複数の図形を組み合わせた図形の面積の求め方を、筋道を立てて考察したり表現したりする必要があります。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題では、正答率が 50%台と課題がみられます。 ・ 図形の性質や構成要素に着目し、図形をずらしたり、回したりして、ほかの図形を構成する問題では正答率が 60%を下回っていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の始めの 5 分間や特設タイム等を活用し、基礎的・基本的な計算技能の確実な定着に努める必要があります。 ・ 辺や角の大きさに着目し、観察や構成などの活動を通して図形についての実感的な理解を深める必要があります。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小数の除法の意味についての理解に課題があります。 ・ 単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解しているかどうかを見る問題の正答率が 50%を下回っていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 示された式の値が何を表しているのか、式を読み取る活動を取り入れる必要があります。 ・ 小数の乗法や除法についても、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを説明し合う活動を取り入れる必要があります。

■ 中学3年生 国語科

全体の概要

- ・ 県や全国平均をやや下回っていました。
- ・ 観点別に見ると、言語についての知識・理解・技能と話す・聞く能力が全国平均を大きく下回っています。
- ・ 問題形式別に見ると、選択式・短答式の正答率が県や全国平均を大きく下回っていました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
話す・聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことや相手に分かりやすく伝わる表現についての理解に課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話す活動の後に、自分の発言や友達の発言について、話の構成や内容、話し方などの評価の観点を明確にして振り返る時間を授業に位置付けることが大切です。
書く	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたい事柄について、根拠を明らかにして書く問題では無解答率が約10%と県平均、全国平均よりも高い結果でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 根拠を明確にして自分の考えを書き、根拠の妥当性について意見を述べ合う活動を行うことが大切です。 ・ 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方、段落構成などに着目し検討する必要があります。
読む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに課題があります。 ・ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことにも課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞や雑誌など様々な媒体に触れたり、文章の種類による叙述の特徴を捉えながら読んだりすることが大切です。 ・ 文章の内容や構造を理解して必要な情報を取り出したり、既存の知識や様々な経験と結び付けて自分の考えを広げたりする必要があります。
知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解することに課題があります。 ・ 封筒の書き方を理解して書くことに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な語句について指導をする際には、実際に使われている具体的場面を取り上げてその意味を確認し、短文を作ったり、別の表現で言い換えたりする学習が有効です。 ・ 教科横断的な学習の中で、はがきや封筒の書き方を指導する機会を位置付ける必要があります。

■ 中学3年生 数学科

全体の概要

- ・ 県と同程度でしたが全国平均をやや下回っていました。
- ・ 観点別では、数学的な見方や考え方と数学的な技能が全国をやや下回っています。
- ・ 領域別では、関数が全国平均を大きく下回っています。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
見方や考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題では、正答率が30%を下回っています。 ・ 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題では正答率が40%を下回り、無解答率も県平均、全国平均より高い結果でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の傾向を的確に捉えて判断の理由を記述したり説明したりするような活動を取り入れる必要があります。 ・ 目的に応じてデータを収集・整理し、傾向を捉えて説明する一連の活動の後、問題解決の過程を振り返り処理の仕方を見直す場面を設定し、数学的に表現する力や考える力をさらに伸ばすことが大切です。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 反比例の表から、x と y の関係を式で表す問題では、正答率が40%台で無解答率も11%と県平均、全国平均より高い結果でした。 ・ 簡単な連立二元一次方程式を解くことにも課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グラフの特徴と式を関連付けて考察する場面を設定し、x と y の関係を式で表すことができるように指導することが大切です。 ・ 定着度を高めるために、小单元ごとの評価テストや個別補充、单元末の習熟度別学習などきめ細かな手立て、指導形態の工夫が必要です。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件の理解については全国平均を大きく下回り課題があります。 ・ 資料を整理した表から最頻値を読み取る問題では、正答率が60%を下回り課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図形の性質を考察する場面では、証明に用いた前提や証明の根拠、結論を整理するなどして証明を振り返って統合的・発展的に考察し、新たな性質を見いだすことが大切です。 ・ 日常的な事象を数や量で捉えて考える機会を増やすことが大切です。 ・ 授業において、数学的用語や数学的表現を使って説明させることを意識付け、用語の意味理解を深めることが大切です。

■ 中学3年生 英語科

全体の概要

- ・ 県平均と同程度でしたが、全国平均を大きく下回っていました。
- ・ 観点別では、言語や文化についての知識・理解が、全国を大きく下回っています。
- ・ 領域別では、聞くこと、読むこと、書くことの3つの領域で苦手さが見られました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く問題では正答率が1%台と低く課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えが読み手に正しく伝わるように、文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として話題や文章構成に一貫性のある文章を書かせる必要があります。
理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞いて把握した内容について、適切に応じる問題では、正答率が5%を下回り無解答も47%と県平均、全国平均を上回りました。 ・ 書かれた内容に対して、自分の考えを示す事ができるよう、話の内容や書き手の意見などを捉える問題でも正答率が5%台と低く、無解答率も県平均、全国平均を大きく上回っていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を整理して、人に伝えてやり取りしたり書いてまとめたりして、内容をどれくらい理解したかを、生徒自身が確認できるような振り返りの活動を仕組むことが大切です。 ・ 英文を聞く必然性をもたせるために、全体の概要や内容の要点など、聞き取るポイントを具体的に示すことが大切です。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることについては、県平均、全国平均より大きく下回っており課題があります。 ・ 一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書く問題では、正答率が15%台と低く、無解答率も県平均、全国平均を大きく上回っていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の基本文や本文を扱うときに、状況を推測させるような発問をする必要があります。 ・ 「原稿を書いて発表する」「友達の発話した内容について感想を言う」「英文を読んで、感想を述べ合う」など、複数の技能を統合した言語活動を仕組む必要があります。

◆平成31年度佐賀県学習状況調査における小城市学年別の結果

■ 小学5年生 国語科

全体の概要

- ・小城市の5年生の平均正答率は、県平均と同じです。
- ・県と同様の傾向として、ローマ字の読み書き問題の無解答率が高く、苦手さがうかがえます。
- ・観点別では、「書く」で県平均を下回っています。
- ・「書くこと」の指導方法を改善して学習を行うことが求められます。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
話し合い	<ul style="list-style-type: none"> ・司会の役割を考えながら話し合いを進めることや自分の考えと比較しながら聞くことが、県平均を下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団での意見交流を日常的に取り入れること、モデルとなる話し合い方を示し、わかりやすく話すことを意識付ける必要があります。 ・話し手の意図は何か、自分の考えとの共通点や相違点は何かなどを整理しながら聞く活動を取り入れる必要があります。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする問題で県平均を大きく下回っています。また、書こうとするものの中心を明確にするために、理由や事例を挙げて書くことが県平均を下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が書いた文章を推敲するだけでなく、互いに読み合ってよいところを伝え合う活動を授業に位置付ける必要があります。 ・字数や文末表現などの条件を設定して、条件を満たした文を書く活動を計画的に取り入れる必要があります。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・事実と意見を区別して読む問題では、正答率が10%以下でした。 ・叙述を基に、登場人物の気持ちの変化を捉える問題では無解答率が30%を上回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明的な文章を解釈する活動で、書き手がどのような事例を挙げ、考えの理由や根拠としているかを明確にさせる必要があります。 ・一つの場面だけの叙述を対象とするにとどまらず、複数の場面を比較したり、物語全体の叙述を関係付けたりして読む活動を取り入れる必要があります。
知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・文の中における主語を捉える問題では、正答率が40%台でした。 ・ローマ字を書いたり読んだりする問題では、無解答率が10%を上回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・述語に照応する主語を見つけたり、主語が省略されている文に主語を補ったりする活動を位置付ける必要があります。 ・意図的にローマ字で書かせたり、タブレットでローマ字入力をさせたり等、ローマ字に触れる機会を増やすことが必要です。

■ 小学5年生 算数科

全体の概要

- ・小城市の5年生の平均正答率は、県平均とほぼ同じです。
- ・観点別では、「考え方」で無解答率が高く、苦手さがうかがえます。
- ・領域別では、「数量関係」で無解答率が高く、苦手さがうかがえます。
- ・知識や技能を活用して考え、求め方や根拠を図や式、言葉で説明する力に課題があります。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
数学的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・示された説明を解釈して変化の特徴を読み取り四角形の周りの長さの増え方を説明する問題では、県平均を下回っています。 ・示された条件を基に考え、具体的な根拠を挙げて説明する問題では正答率が20%台で、無解答率が10%を上回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや表、図、式を関連付けながら説明させること、判断した理由や根拠を明らかにすることを重視し、算数的表現力を高める必要があります。 ・示された情報を図に表したり問題解決に関係ある数量を取り出して表に整理したりして、複数の情報を関連付けて問題解決に必要な数量を見いだす活動を授業に位置付ける必要があります。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・m^2で表された面積をcm^2で表す単位換算の問題や四則が混合し、()を用いた式の計算では、県平均を大きく下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに習熟の時間を確保し、技能の定着を図る必要があります。 ・特設タイムを活用して、正確さやスピードなど個に応じたためあてを持たせ、スキルの向上に努めることが大切です。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの位置の表し方や展開図を組み立ててできる立体の辺の位置関係の理解に課題がみられます。 ・面積についての感覚や図形領域における空間認知力を身につけることが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では算数用語を使って説明させることを日常的に意識して指導することが大切です。 ・単元前にディネス調整を行う必要があります。 ・既習内容を振り返ることができるよう掲示物を工夫する必要があります。

■ 中学1年生 国語科

全体の概要

- ・小城市の中学1年生の平均正答率は、県平均を下回っています。
- ・観点別では、「読む」「知識・理解・技能」が県平均を下回っています。
- ・無解答率は県平均をやや下回っており、漢字を書く問題では無解答率が19%でした。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
話の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する問題では正答率が40%台と低く課題がみられます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会での先生の話について要旨をまとめさせるなど、日常生活の中で話を注意して聞くことができるような機会を授業に位置付ける必要があります。 ・観点に基づいてメモを取るようにし、考えの共通点や相違点、関連して考えたことをまとめるように指導することが大切です。
書く	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて、自分の考えを書く問題では、正答率が30%台と低く無解答率も高くなっていました。 ・また、目的や意図に応じて、必要な内容を適切に引用して書く問題も正答率が50%台でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から国語科以外の教科においても、調べたことをもとに事実と感想・意見を整理して書く活動を取り入れる必要があります。 ・図表やグラフから情報を読み取り、必要な情報について適切な言葉を用いて書く活動を設定する必要があります。
読む	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことについては、正答率が30%台で、無回答率も高かったです。 ・登場人物の相互関係や心情についての描写を捉えることや構成の仕方を捉える問題では県平均を下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を図表と関連付けながら読んだり、思考ツールなどを活用して文章を図化したりする活動を授業に位置付ける必要があります。 ・言葉を手掛かりにしながら登場人物の心情描写や行動描写などに着目して読むように指導することが大切です。
知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・文脈に即して漢字を正しく書くことは、無解答率が高い傾向にあります。 ・文の中における主語を捉える問題や漢字の由来について理解する問題では正答率が県平均を大きく下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文や文章の中で、漢字のもつ意味を考えながら適切に使うことができるように指導することが大切です。 ・主語・述語や修飾・被修飾の関係を正しく捉える活動や同音異義、同訓異義の漢字指導などを計画的、継続的に指導する必要があります。

■ 中学1年生 数学科

全体の概要

- ・小城市の中学1年生の平均正答率は、県平均とほぼ同じです。
- ・観点別では、「考え方」が県平均を大きく下回っています。
- ・無解答率は県平均とほぼ同じですが、「活用」に関する問題の苦手さがうかがえます。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
数学的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・示された数値を基準とした場合の平均の求め方を説明する問題や比較量を求めて値引きされる金額が大きい方を考える問題では、正答率が30%台と低く、無解答率も県平均より高かったです。 ・縮図や拡大図の考え方をを用いて、写真を何倍に拡大すればよいのかを考える問題では、正答率が30%台で県平均を大きく下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・式や結果の数値の意味を考える活動を設定する必要があります。 ・文章問題から必要な情報を取り出し、既習事項や問題場面などと関連付けて、考えの根拠が伝わるように書くこと、図や言葉を用いて説明することを重視した授業づくりが大切です。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・柱状グラフを読み取る問題では、正答率が県平均を大きく下回っています。 ・縮図上の長さから実際の長さを計算で求めることや三角柱の体積を求める問題では正答率が50%台でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの観点でグラフを読み取るだけでなく、グラフの特徴を複数の観点で捉え、他者が読み取った情報や観点をグラフと関連付けて解釈したり説明したりする必要があります。 ・小学校での既習内容で課題の見られる体積などの学習については、個別の実態に応じた放課後補充学習などきめ細かな対応が必要です。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・除数が分数や小数の除法において、被除数と商の大きさとの関係についての理解については、正答率が40%台で県平均を大きく下回っています。 ・円周の長さの求め方の理解については正答率が40%台と課題がみられました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・除法における被除数と商の大きさの学習では、具体的な問題場面と関連付けながら、式や計算結果の数値が表している意味を考えさせる必要があります。 ・数学的用語や基本となる知識の習得については繰り返し復習させる必要があります。

■ 中学2年生 国語科

全体の概要

- ・小城市の中学2年生の平均正答率は、県平均とほぼ同じです。
- ・観点別に見ると「書く」「知識・理解・技能」が県平均を下回っています。
- ・漢字を書く問題の無解答率が約20%と多く、苦手さがうかがえます。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
話し合い・ 書く	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる問題では正答率が40%台で無解答率も高かったです。 ・その場にふさわしい言葉遣いで話す問題では正答率が県平均を大きく下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの発言を検討したり、合意形成をしたりする場面を授業の中で意図的・計画的に設定する必要があります。 ・日頃から相手や場を意識した言葉遣いの指導が大切です。
書く	<ul style="list-style-type: none"> ・書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にする問題では、正答率が30%台で県平均を大きく下回っています。 ・必要な材料を集めるための見通しをもつことや集めた材料を整理する問題では、正答率が県平均を大きく下回り無解答率も高かったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書いた後に、生徒自身が読み返すだけでなく、推敲の観点を示して、互いに修正したり訂正したりするような活動を授業に位置付ける必要があります。 ・書く目的や読み手の立場によって取り上げる事柄や言葉の選び方を工夫するように指導することが大切です。
読み	<ul style="list-style-type: none"> ・会話描写に注意して読みながら内容を理解し、自分の考えをもつことは無解答率が約15%でした。 ・文章の表現の特徴について自分の考えをもつ問題では正答率が30%を下回っていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んだ後に自分の感想をもつ、書き留める、理由や根拠をもたせて人と交流する場面を、授業の中に意識して取り入れることが必要です。 ・評論分や意見文など他の文章の種類と比べ読みを行い、文章の種類による叙述の特徴に気づかせることが大切です。
言語事項	<ul style="list-style-type: none"> ・文脈に即して漢字を正しく書く問題では、県平均を大きく下回っています。 ・歴史的仮名遣いの理解や古典の様々な作品に親しむことについては正答率が県平均を大きく下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、漢字を意識的に使うこと、新聞を読む機会を増やして語彙を豊かにすることが大切です。 ・古典を学習する面白さや必然性を感じさせる学習課題を設定する必要があります。

■ 中学2年生 数学科

全体の概要

- ・小城市の中学2年生の平均正答率は、県平均と同じです。
- ・観点別に見ると「考え方」の無解答率が高く、苦手さがうかがえます。
- ・「活用」に関する問題の無解答率が約20%と多く、苦手さがうかがえます。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
数学的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事象における数量の関係を捉え、一元一次方程式をつくる問題では、正答率が10%台と低く、無解答率も30%台でした。 ・代表値を基に、資料の傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題でも正答率が10%台と低く、無解答率も高かったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数量の関係を式に表すだけでなく、その式を事象に即して解釈する活動を取り入れる必要があります。 ・事象を多面的に見ることができるようにするために、生徒同士で自分の考えを説明し合い、根拠を適切に示して説明できているかを確認し合う活動を取り入れることも必要です。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・分数を含む一元一次方程式を解く問題では、正答率が30%台と低く、無解答率も20%台でした。 ・柱体の側面積を求める問題や錐体の体積を求める問題では正答率が50%を下回るという結果でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・方程式を解く際に、移項などの手続きを形式的に行うだけでなく、等式の性質を根拠にして式変形していることを理解できるように指導することが大切です。 ・錐体の体積を求めるために、どのような見取り図をかいて、どの要素がわかればよいかなど、体積を求めるまでの見通しを持つことができるような活動を位置付ける必要があります。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の意味の理解については、正答率が10%台と低く、無解答率も県平均を大きく下回っていました。 ・有効数字の表し方の理解については、正答率が20%台と低く、県平均より下回っていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的用語や基本となる知識の習得については繰り返し復習させる必要があります。 ・ノート指導を重視し、一時間ごとの学習内容のポイントを整理して、いつでも自分で既習内容を振り返ることができる学習履歴として活用させることが大切です。